

< 学長裁量経費海外派遣レポート >

カナダ国ウィルフリッドローリエ大学とウエスタンオンタリオ大学 「エイジングと身体活動センター」訪問レポート

川西正志*，西菌秀嗣**，田畑 泉***，北村尚浩***

Masashi KAWANISHI, Hidetsugu NISHIZONO, Izumi TABATA, Takahiro KITAMURA

1．派遣の目的

大学間の国際交流協定の締結を前提として，相互のカリキュラム，スタッフ等に関する情報交換を図るとともに，具体的な交流内容を検討，調査することを目的としている。

2．派遣期間

平成14年3月15日～3月21日

3．派遣先

カナダ国オンタリオ州ウィルフリッドローリエ大学ならびにウエスタンオンタリオ大学エイジングと身体活動センター

4．調査結果

ウィルフリッドローリエ大学運動科学・体育学科 (Department of Kinesiology and Physical Education, Faculty of Science)

ウィルフリッドローリエ大学 (WLU) は1911年に創立され学生総数9,800人にのぼり，スタッフ640名で運営されている。学部は，芸術，ビジネス，科学，社会福祉，音楽の5つの学部と，大学院からなる総合大学である。**運動科学・体育学科は，科学学部**に位置付けられている。現在WLUヨーロッパ，北米を中心に21カ国の大学と国際交流プログラムを実施している。

学内の運動・スポーツ施設としては，体育館，50m 室内プール，トレーニングルーム，スタジオ，スカッシュコートなどからなるアスレチックコンプレックス (写真1，2) の他，テニスコート，グラウンド，そして6,000人収容のユニバーシティ・スタジアムなどを有している。これらの運動・スポーツ施設は，スポーツクラブ会員制度をもって地域への開放も実施している。

大学には22の Varsity チームがあり，多くの学生が学部・学科を問わずに所属している。それぞれオンタリオ州大会，全国大会等で活躍しており，中でも女子ホッケーチームは，2001年のシーズンにおいてカナダ大会2位という成績を収めている。

運動科学・体育学科は，科学学部における一つの学科として位置付けられており，専任のスタッフは11名，学生数は約400名である。

今回の交流協定に関する事前調査会議のコーディネ



写真1．WLUアスレチックコンプレックス

*鹿屋体育大学生涯スポーツ実践センター

**鹿屋体育大学スポーツトレーニング教育研究センター

***鹿屋体育大学体育学部



写真2. トレーニングルーム：
WLUアスレチックコンプレックス



写真4. 運動科学・体育学科スタッフとのミーティング

ネーターを、ウィルフリッドローリエ大学大学院研究科長・教授のマックファーソン博士に依頼し、会議に先立ってマックファーソン博士のオフィスにおいて、簡単な打ち合わせを行った（写真3）。



写真3. Dr. McPerson との打ち合わせ

続いて運動科学・体育学科のミーティングルームにて、**運動科学・体育学科長**のウェン準教授、ペリー助教授、フレッチャー助教授らと教育研究交流プログラムに関して意見交換を行った（写真4）。

会議の中では、終始両大学の学生・スタッフ間の交流に関して、その意義と可能性について意見が交わされた。特に学生交流では単位認定基準等についての議論も重要であるが、なによりも、学生がそれぞれの大学で授業を通じた様々な異文化

体験の重要性が認識された。

次の段階で、今回の会議結果の内容を**運動科学・体育学科**会議に諮り、その結果を受けて国際交流の窓口であるローリエ・インターナショナル（Laurier International）に交流協定について具体的な検討を依頼することになった。

ウエスタンオンタリオ大学「身体活動とエイジングセンター」（Canadian Center for Aging and Physical Activity）

地域と大学が一体となった健康づくりのセンターがある。地域の高齢者に対する運動実践の実際的な面で、ウエスタンオンタリオ大学のスタッフが附属施設として運営に関わっている「身体活動とエイジングセンター」で、これは大学体育学部、大学病院、センター独自の専任職で運営するユニークな高齢者向けの実践研究センターである。大学病院からは土地と建物を、研究スタッフは大学体育学部から提供を受け、センター運営は専門職員を抱えている。センターの組織は、生理学的検査、心肺機能、血液化学など6つの専門部門からなっており、身体活動プログラムの開発と指導者養成トレーニングのために体育館を有している。ここでの研究は大学教官をはじめ、大学院生や学部生が積極的に参画し、各種教室の専門的指導にはボランティア指導者として登録し活躍している。そ



写真5．高齢者エクササイズプログラム



写真6．神経・筋生理学実験室での実験風景



写真7．心機能実験室のドクターの説明を受ける筆者ら

して、センターを利用する近隣の高齢者に対して継続的な身体活動プログラムの指導（写真5）を提供し、さらに、参加者の運動生理学的、医学的、運動生化学的な各種実験や測定並びに心理学的調査などが実施されている（写真6、7、8）。そうした研究成果への期待は、今後の高齢社会に対して大きく、体育学部のスタッフが配属されている。まさに、産学の連携がとれた共同研究システムで具体的な高齢者の身体活動プログラムの研究開発に取り組んでいるのは、我が国においても参考になる。

このセンターの前身である身体活動とエイジングセンター（Center for Activity and Aging : CAA）は、高齢者の独立を促進するために身体活動とエイジングの相互関係を調査し、研究成果に基づく戦略を開発することを目的として、1986年にウエスタンオンタリオ大学運動科学部、医学部、及びセントジョセフヘルスセンターのローソン研究所とが連携して設立された。1996年にCAAの業務を引き継いでカナダ身体活動とエイジングセンター（Canadian Center for Activity and Aging : CCAA）が法人組織化され、慈善団体として登録されて現在に至っている。



写真8．筋力トレーニング室

さらに、センターでは、独自に指導者を養成するリーダーシップトレーニングプログラムを開催している。表に示しているように、高齢者

表 . CCAA が行うリーダーシップトレーニングプログラム

シニア・フィットネスインストラクター (SFIC)	長期療養機能フィットネス	ホームサポート運動プログラム	トレーナーのためのトレーニング
<ul style="list-style-type: none"> ・ 36時間のワークショップと16時間の実習 ・ 高齢者への運動指導者養成 ・ 受講料は150～250ドル 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 16時間の要介護高齢者に関するワークショップ ・ 受講料は200ドル 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4時間のワークショップ ・ ホームサポートのためのトレーニング ・ 受講料は75ドル 	<ul style="list-style-type: none"> ・ SFIC を対象とした36時間のコース ・ 地域で SFIC を養成することが求められる

の運動指導に特化した指導者養成プログラムや (SFIC), 長期療養者の機能維持のためのワークショップなどが, センター内のみならず, オンタリオ州を中心として各地で開催されている。

5. まとめ

今回の両大学の訪問と交流プログラムの実施に向けて調査を行ったが, WLU では, すでに多くの点で合意事項が成立しつつある。特に, 総合大学であるための学際的交流のメリット等も考えられ, 早期の学生交流協定の締結が望まれる。また, ウェスタンオンタリオ大学にある Canadian Center for Aging and Physical Activity も本学に設置された生涯スポーツ実践センターとの交流には最適なセンターである。とりわけ, 地域の健康づくりに大学の研究が役割を果たし, また, 高齢者運動指導者の育成もするなど, 今後も交流を継続していく予定である。